

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援用）

○事業所名	吉備の里ぼけっと		
○保護者評価実施期間	令和6年12月10日		令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 10名 (回答率：91%)
○従業者評価実施期間	令和6年12月10日		令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名(回答率：100%)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が楽しみながら学び、心の成長ができるように子どもの声を受容し認める視点を、職員間で共通認識し療育を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児発療育後、必ず振り返りカンファの時間を設けることで支援の見直しや共感など、統一した支援ができるように意識している。 ・ 子どもたちが楽しく課題など取り組めるよう、個に合った教材づくりの工夫をしている。 ・ 定期的に、外部講師の専門的視点から助言を受けることで職員のスキル向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカンファに参加出来ない職員については、連絡ノートの活用や月1回職員会議に全員出席できるように勤務時間外の手当の支給を行う。 ・ 外部や法人内部の研修会へ積極的に参加し、所内で伝達研修を行うことで個々のスキルを上げていく。
2	環境面が整っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館を活用することで、天候を気にせず運動課題に取り組める。 ・ 農園で季節の野菜を育てる経験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農園管理について：年間の作付け計画を立てることで無駄な出費を抑える。 ・ 子どもたちが、安全に取り組めるよう危険への配慮を怠らない。
3	所属子ども園へ訪問をすることで、集団での様子を見学し担任の先生との情報共有を行うことで、小集団での役割を明確にし支援に繋げる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問した内容を保護者の方へ伝えることで、安心感を持っていただき、更に、療育で取り組む支援内容の確認を行うことができる。 ・ 子どもたちの成長や課題を参考にして、日々の療育の支援内容へ繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属子ども園と保護者のパイプ役になり、子どもたちが安心して過ごしやすい環境づくりを目指す。 ・ 所属子ども園の先生と連携が取りやすいよう信頼づくりを行っていく。
4	就学前のプログラムが充実している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学前を見据えたプログラムへの取組みが定着している。 ・ 専門的視点で確認をして頂くことで、それぞれの子どもに応じたアプローチができています。 ・ 職員が充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの特性が変化する為、その特性に沿ったプログラムの工夫が必要となる。そのため、他事業所の視察等を行い、勉強をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子療育から集団療育になると、保護者とのコミュニケーションが不足しがちになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園から園への送迎になり、保護者の方と直接話をする機会が少なくなる。 ・ 連絡帳でやり取りをするが、概ね事業所からの一方的な連絡になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由参観が出来るよう開放することで、保護者の方が来所された際に療育での様子をお伝えするなど、コミュニケーションを取る場が設けられる。 ・ 親子行事や保護者交流会の開催。
2	親子療育をメインで行う事で保護者の方が療育時間の参加が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学時に親子療育の大切さをお伝えし、重要さは理解されるが利用となると保護者の方が時間を割いて通うことが難しいようで利用児確保が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本は、3ヶ月間の親子療育が望ましいが、年齢に応じて期間の短縮も可能にしている。（年長クラスについては親子療育2回程度から集団療育へ移行する。）
3	専門性のある職員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢維持、身体のしくみや機能、心のケアなどより専門的アプローチがあれば、子どもの身体の成長に生かせることができるのではないかと。 ・ 将来的には、医療ケア児の受け入れができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法士や心理士などの専門分野の人材確保ができるよう働きかけを行う。